
境界線上の麻帆良

伊都桐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界線上の麻帆良

【Nコード】

N8968N

【作者名】

伊都桐

【あらすじ】

『末世』の喪失を武蔵は防げなかった。『末世』により消えてしまったはずの葵・トーリが何故か麻帆良に現れる。トーリは麻帆良にて新たな出会いを果たし、再び境界線を目指すこととなる。

魔法先生ネギま！を舞台に川上稔の世界を融合、二つの世界の平行線は一体どこへ行き着くだろうか？

この作品には、キャラ改変 オリ要素 独自解釈 独自展開が多々含まれております。

この作品は多重クロス作品になる予定です

序 序

「そっち！、そっちに逃げたわよ！」

「アイやー、回り込むアル 楓は左から、私は正面から行くアル」

「承知っ！！」

昼下がりの倦怠な時間には、不釣り合いな少女たちの鋭い声が響く。と同時にドタドタと、少なくとも十人以上であるうか、駆け抜ける足音が聞こえてくる。

その喧騒に釣られるように校舎から 何かと幾人もの生徒達が窓を覗くが、全員がどこか納得したような顔で再び机に向かう。

「全くっ！ あいつらは授業中に一体何をやっているのだ！」

「マスター、授業をサボタージュしているとはとても思えない、上からのお言葉 〴〵立派だと判断出来ませぬ」

うるさい、と隣にいる緑の髪の少女に悪態を尽き 金髪のその絹のように細い髪をかきあげながら、エヴァンジェリン・A・K・マクダウェルは身を起こした。

「ふん！ 大方またあの男 絡みだらうよ」

「あの男」 『不可能男』 “インポッシブル” ですね」

ああ、と頷きを形としてつくりエヴァは屋上から自分のクラスメイ
ト 2-Aの面々に追いかけている馬鹿を見る。

「そつだ、あの男」 『葵・トーリ』だ！」

「所でマスター、何故トーリ様は女装をしているのでしょうか？」

「……私に聞くな……」

序 序（後書き）

初めまして伊都桐です。

今回が初投稿です。

まずはここまで読んで下さった皆様へ多大なる感謝を

私の処女作『境界向こうの麻帆良』はいかがでしたでしょうか？

……何々、「文量が少なすぎて感想どころではない」

……、はい、ということまで完走目指して頑張って行きますので、
これからどうぞよろしくお願いします。

初投稿ため失敗してしまいました。明日大幅改訂の予定

ご迷惑をかけて申し訳ありません。ご迷惑をかけて申し訳ありませ
ん。

タイトルその他にも修正予定

序 巻（前書き）

魔法先生ネギま！と境界線上のホライゾンがメインのクロス作品です。

この作品にはキャラ改変、オリ要素、独自解釈と廚二病三大疾病が含まれております。

この作品は個人により不快感 苛々 ムカつきなどの極度のアレルギー反応を起こす場合がございます。

その場合は直ちに読書を中止、他の人気小説を読むことを推奨します

また用法、用量を守り正しくご利用下さい。

序 巻

神楽坂明日菜は怒っていた。 否、かつてないほど激昂していた。

本来では今は体育館でのバレーボールの授業だったはずだ。

成績はあまりよくないが、体を動かすことは好きだし、午前中の数学やら英語やらの小難しい授業ですっかり凝り固まってしまった体を思いつきり動かしたかった。

それに、……と彼女は思う。

本来の体育教師が出張の為、今日2 - Aの体育の引率は担任である高畑・T・タカミチがしてくれていたのだ！！

高畑先生との巡るめく至福の時間を想像していた彼女であったが、そんな彼女の『幻想』をぶち殺す存在が現れた。

事の起こりは体育が始まった直後にまで遡る。

女子更衣室にて体操着に着替え、コート準備を終えて高畑先生の登場をいまか、いまかと待っていた彼女であったが、授業の時間が始まって肝心の高畑先生が現れない。

と、そこに

2 - Aのクラス委員長にして彼女と犬猿の仲である雪広あやかが現

れ「高畑先生は所用の為少し遅れる」との連絡を持ってきた。

そこまではいい。いや、本当はよくないが、ここまでは至極一般的に起こりうることだ。

だがその絶望的な知らせを持ってきた委員長の背後から更なる絶望は襲ってきた。

「おいおい、明日菜 お前の制服、少しウエストキツいんだけどよ。……太ったか？」

「ト、トリー君？ どうして女子用の制服を着ているのかしら!？」

「ん、なんだよ那波。俺つてば、そついや体操着つて持つてなかったなあつて思つてよ。女子更衣室でよ、なんか着れるもんねえかなあつて探してたらさ」

「ちよつ！ちよつと待つでござるよ！トリー殿！！ じよつ、女子更衣室つて!!」

「ああ!？ 何だよ長瀬。べつ別にオメエのその犯罪級の胸が入る服とか漁つてねえかな！ あまりにも犯罪的なんで罪を軽くするためにちよつと試着したけどマジに胸部スペースすげえのな

「!

「……………はっ!? 一体何が起こったの!? 『時間』の『間隔』
が『いつの間にか』『すっ飛ばされていたっつ!!!』 『こっ!こ
れはまさかスタンド攻撃!!』」

……………本気で危ないことを口走る彼女だが、

「おいおい明日菜。ちゃんと俺の話聞いてたのかよ! だか
らさ、少しお前太ったんじゃ」

その瞬間、十分な助走を以て加速した明日菜の膝蹴りが馬鹿の左頬
に突き刺さり、馬鹿は通路側へと吹っ飛んだ。

「いきなり何すんだよ明日菜。 ……あっ!あれかつ! しっ、知
ってるんだぞ!! 最近のキレやすい子供達って奴だ! タカカイ
アラゾウになつた奴だ」

常人なら、「ああ、死んだな」と思わせる交通事故のような衝撃を
受けてなお、馬鹿は無傷で立ち上がりこちらに震える指先を突きつ
けた。

「やっつかましいわ!いまからアンタを 『トリー君』っつ!」

更なる追撃を掛けようとしていた彼女だが、背後から立ち上る強烈
な冷氣《殺気》に出鼻を挫かれる。

『トリー君……、まさかとは思うけれど、私の制服には何もしていませんよね？』

「ん、何だよ那波。ちよつと怖えぞ。

安心しろ、ちゃんとオメエの罪も軽くしてやったから！」

馬鹿がいい笑顔でサムズアップしてくるが、気付かないのだろうか？ 自分がいま、死亡フラグを立てたことに。

『あらあら、これは 《お仕置き》 が必要ね』

馬鹿はその瞬間、脱兎の如く駆け出した。

ああ、流石に命の危機は分かるのね。 なんて暢気なことを考えていたが。

「ちよつ、ちよつと！あたしの制服……！」

私も飛び出した馬鹿を追って、体育館から駆け出す。後ろから何人かのクラスメイトも駆け出してくるが、
どうして、みんな必死の形相をしているのだろうか？

…まあいい、今は逃げた馬鹿のことだ。

「待ちなさい！ 葵・トリー……！！！」

「あつ！ 社会現象か！」
長谷川千雨は誰ともなく呟いた。

序 巻（後書き）

どうも作者の伊都桐です。ここまで読んで下さった皆様へまずは感謝を。

しかし、自分で文を書いてというのは、予想以上に大変ですね！

プロットの的には、原作の魔法世界突入前くらいまでは出来上がっています。2話書いた感想としては、一体いつになったらそこまで行けるか全く分かりません。

私としてはもちろん完結が目標なので何処まで続くか分かりませんが、付き合っていたいただけると幸いです。

『べっ！別に2話目がダラダラと長くなったのに、ちっとも進まなかった言い訳とかじゃないんだからねっ！』

.....ではでは。

後書き、前書きの編集方法が分かりません。 一話が見づら

いと思いますがごぼうは「承下せう」。

序 式（前書き）

.....！

さあさあ、盛り上がって来ましたよ！！！

（配点） 出会い

序 式

エヴァは屋上から、騒ぎが収まった校庭を見下ろしていた。少し強い風が吹いており、風にもてあそばれる髪を煩わしそうに一度すく。

馬鹿は、どこからか持ち出された荒縄でぐるぐる巻きにされ、「な、縄！らめっ——！！」と叫んでいるが、いつも通りなので特に問題ない。

その周りには2-Aのクラスメイト達が頬を上気させ、疲れたような、しかしどこか「私達はやった！！」と満足気な顔で取り囲んでいる。

……しかし、縄に巻かれてはいるが所々から見える素肌の部分から、もしか全裸では？と疑問に思ったが、それこそいつも通りだなと改めて思い、そこで、端と気付いた。

《いつも通りか……》

葵・トーリがこの麻帆良に現れてから大体、一ヶ月ほど経っている。たった一ヶ月ほどで《いつも通り》などと思えるのは、葵・トーリのキャラが濃いからだろうか？

それとも……、とエヴァは葵・トーリとの初めての出会いを思い出していた。

「今宵の満月は一段と綺麗だ」

九月。秋分の日を幾らか過ぎ、今夜は満月である。

中秋の名月と称される満月を背景にエヴァは上機嫌に空の散歩を楽しんでいた。本当は、茶々丸に酌でもさせ、庭からのんびりと月を眺めようかと思っていたが、“墮落三昧”《マッドデモン》と“狂走少女”《ゴールドウィン》の二人が『臨時メンテナンスだ』といつて茶々丸を連れて行ってしまった。

手酌で呑むのも淋しいし、じじいの所で呑もうかとも思ったが、今夜は自宅で有志の職員を集い会議を開くといっていたな。と思いつき酒は諦め、空の散歩に繰り出したのだ。

《しかし、こうして月を眺めて散歩をしていると、昔のことをおぼろ気に思い出してしまうな》

それは、麻帆良に縛られるよりも、日本に、極東に、初めてきた時よりも、多くの刺客、追っ手に怯えていた頃よりもずっとずっと昔の頃。

余りにも永い時がすぎ、磨耗し、擦りきれてもなお忘れることのない『幸い』の記憶。

こんな夜はおばあちゃん子だった自分は、祖母と二人で散歩をし、祖母に昔話をよくねだったものだ。

祖母の話は、思えば荒唐無稽、奇想天外であり、幼かった自分を楽しませるための『物語』だったのだろう。

曰く、『巨大な船が空を飛んでいた』『世界中の英雄達はその覇を競った』『自分はお姫様だった』などなど、他人が聞けば一笑に付すだろうが、幼かった私は

一生懸命に聞いていたな……

そういえば……

あの『歌』を覚えて貰ったのも、こんな月夜だったか……

祖母は自分に『通すための歌だ』と聞いていたが、何を通すのかと、いくら自分が尋ねても微笑むだけで教えてはくれなかった。

すっかり忘れていたな……、さてどういう歌だったか？

確か……、！？

夜の静寂を切り裂くように鋭い声が走る。

『エヴァ！緊急事態だ』

突如、ジジイ《学園長》からの通信が入る。

『ああ、分かっている！ 侵入者だ！！』

答えるエヴァは自分も先ほど感知した魔力反応の方角を見据える。

……くそう！何故気がつかなかった！！既に世界樹近くまで侵入されている！！

『エヴァ、直ぐに現場に急行してくれ！近くに手すきの魔法先生がおらん！！』

麻帆良の大結界をここまで潜り抜ける相手じゃ
！
充分注意するんじゃぞ！！！！』

『ああ！分かっているさ！！』

少々乱暴に学園長との通信を切り、エヴァは身を翻し全力で世界樹に向かつて飛ぶ。

くそう！私の夜を邪魔しおって！！この借りは高くつくぞ！

！！

序 式（後書き）

えー、約一週間ぶりのご無沙汰です。

伊都桐です。

まずはここまで読んでいただいた皆様へ多大なる感謝を。

前回、自分はよく書いたあああああ！！！と思い、投稿したところ……………

… たっ、 たった2ページ！？

暫くショックを受けました（笑）

いやー、1回で10ページとか投稿される方は本当にすごいですね！

…………… あやかりてえな！！

ところで今回ですが、多重クロス第一段として、【西尾維新】の【戯言シリーズ】より“墮落三昧”《マッドデモン》の称号が登場しましたが、葉加瀬は葉加瀬のままですのでご安心下さい。まあ……………、性格は原作とは大きく離れると思いますが……………。

《墮落という、墮落を、墮落させる》的なキャラクターにさせるつもりですので、登場を楽しみにして貰えれば嬉しいです。

さて、次回の『境界線上の麻帆良』ですが、

「エヴァ、トリーに出会う。」

「エヴァ、トリーを殴る。」

「トリー、学園長と会談する。」

の三本です。

お楽しみに！

うふふふふふ！

『《予告がサザエさん！ただし、じゃんけんはなし！！》みたいな
！』 by 《戯言シリーズより、葵井巫女子》みたいな！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8968n/>

境界線上の麻帆良

2010年10月18日05時20分発行